

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京工芸大学
設置者名	学校法人東京工芸大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	メディア画像学科	夜・通信		3	41	46	13	
	生命環境化学科	夜・通信			31	36	13	
	建築学科	夜・通信			66	71	13	
	コンピュータ応用学科	夜・通信			33	38	13	
	電子機械学科	夜・通信			51	56	13	
	工学科	夜・通信			132	137	13	
芸術学部	写真学科	夜・通信	2	14	30	46	13	
	映像学科	夜・通信			23	39	13	
	デザイン学科	夜・通信			20	36	13	
	インタラクティブメディア学科	夜・通信			28	44	13	
	アニメーション学科	夜・通信			12	28	13	
	マンガ学科	夜・通信			26	42	13	
	ゲーム学科	夜・通信			14	30	13	
<p>(備考) 工学部メディア画像学科・生命環境化学科・建築学科・コンピュータ応用学科・電子機械学科は学生募集を停止しているため、従前の教育課程に基づき記載している。工学部工学科は完成年度を越えていないため、2年次以上の配当科目は設置計画に基づき記載している。</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

【シラバス検索手順】

①次の URL を開く。 <https://www.t-kougei.ac.jp/syllabus/>

②キーワード欄に「実務経験有り」と入力し，【検索】 ボタンをクリックする。

※必要に応じて，学部・研究科等を選択する。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京工芸大学
設置者名	学校法人東京工芸大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/board/">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/board/</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	商工会議所副会頭	平成31年2月4日～令和4年3月31日	産学官連携に関する事項
非常勤	国立大学法人名誉教授	平成31年2月4日～令和4年3月31日	大学の運営全般に係る事項
(備考) 学外者6名のうち2名を記載			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京工芸大学
設置者名	学校法人東京工芸大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスの以下の項目等について、シラバス作成マニュアルを作成し、例年12月下旬から1月上旬にシラバス作成依頼をする際に、各科目の担当教員に配付している。</p> <p>「授業概要」(工学部)、「科目概要」「授業内容」(芸術学部)</p> <p>「学習成果との関連」(工学部)</p> <p>「到達目標」(両学部)</p> <p>「授業計画」(両学部)</p> <p>「履修上の注意」(両学部)</p> <p>「準備学習(予習・復習)の内容・時間」(両学部)</p> <p>「成績評価方法・基準」(工学部)、「成績評価方法」(芸術学部)</p> <p>「試験方法」(芸術学部)「課題(試験やレポート等)に対するフィードバック」(工学部)</p> <p>「教科書等」(両学部)</p> <p>「科目と関連する実務経験」「実務経験の科目への活用」(工学部)</p> <p>「担当教員の実務経験と科目の関連性」(芸術学部)</p> <p>また、各科目の担当教員により作成されたシラバスを、2月から3月にかけて教務委員がすべて確認し、必要に応じて修正のうえ、4月の授業開始前までにポータルサイトで学生に公表している。大学のホームページにシラバス検索機能を設けて、外部に対しても公表している。</p> <p>さらに、シラバス作成依頼前の12月頃、シラバス作成に関するFD研修会を開催し、適切にシラバスが作成されるよう教員の能力向上を図っている。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.t-kougei.ac.jp/syllabus/">https://www.t-kougei.ac.jp/syllabus/</a>

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学則では「学生の学修の成果に係る評価及び卒業の認定については、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。」としている。</p> <p>また、「工学部履修及び修得に関する規程」、「工学部試験規程」及び「芸術学部学修に関する規程」を設け、「試験の区分・方法」「試験の受験資格」等を明記している。</p> <p>これらの学則及び規程に基づき、シラバスに「成績評価方法・基準」(工学部)「成績評価方法」(芸術学部)「試験方法」(芸術学部)欄を設け、公表している。なお、シラバス作成に関するFD研修会を開催し、「成績評価方法・基準」(工学部)「成績評価方法」(芸術学部)「試験方法」(芸術学部)が適切に設定されるよう教員の能力向上を図っている。</p> <p>さらに、成績照会制度を設け、成績評価について疑義がある場合には、学生が教員に成績評価の根拠を照会することができるようになっており、成績評価の客観性及び厳格性を担保している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学則では「試験の成績は、秀、優、良、可及び不可の5種とし、秀、優、良及び可を合格とし、不可を不合格とする。」としている。</p> <p>また、「工学部履修及び修得に関する規程」、「工学部試験規程」及び「芸術学部学修に関する規程」を設け、「評点」と「評価」の対応関係(90～100点=秀、80～89点=優、70～79点=良、60～69点=可、0～59点=不可)及びGPAの算出方法(<math>(4 \times \text{「秀」の単位数} + 3 \times \text{「優」の単位数} + 3 \times \text{「良」の単位数} + 1 \times \text{「可」の単位数}) \div \text{総履修登録単位数}</math>)を明記し、大学のホームページ上で公表している。</p> <p>さらに、前期・後期の各学期末に算出されたGPAは学生向けポータルサイトに掲載するとともに、成績通知表に掲載し保証人に対して通知している。GPAの分布状況についても集計し、保証人に対して成績通知表と併せて送付するとともに、教員の学生指導に活用している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p><a href="https://www.t-kougei.ac.jp/students/syllabus/#achieve">https://www.t-kougei.ac.jp/students/syllabus/#achieve</a></p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学則では大学の目的及び使命を「工学・芸術の理論と応用を教授・研究するとともに、広い基礎的視野・認識と高度の専門知識・能力をもち、広く社会において指導的役割を担い得る人間性・感性豊かな人材を育成する。」とするとともに、学部及び学科の目的を別途定めている。</p> <p>上記の学則の規定に基づき、教務委員会・教授総会・大学運営会議・理事会等の審議を経て、大学及び学部・学科のディプロマ・ポリシーを定め、大学のホームページで公表している。</p> <p>また、ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラムの編成及び卒業要件単位の設定を行い、教授総会において厳格な単位認定及び卒業判定を実施し、卒業要件単位を満たした者に対しては、単位制の趣旨に則り、学士の学位を授与している。</p> <p>さらに、学長をトップとした、3ポリシー（ディプロマ・カリキュラム・アドミッション）に関する検証体制を整え、毎年、学部・学科のディプロマ・ポリシーを検証し、内容の見直しを図っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p><a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/</a></p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京工芸大学
設置者名	学校法人東京工芸大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/finance/">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/finance/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/finance/">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/finance/</a>
財産目録	<a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/finance/">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/finance/</a>
事業報告書	<a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/finance/">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/finance/</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/finance/">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/finance/</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/grading/">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/grading/</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.t-kougei.ac.jp/static/file/ninshohyoka2014.pdf">https://www.t-kougei.ac.jp/static/file/ninshohyoka2014.pdf</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的 (公表方法： <a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#engineering">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#engineering</a> )
(概要) 幅広い視野と教養を持ち、人と自然環境との調和・共生を科学する豊かな感性を備え、科学技術をもって明るい未来社会の構築に貢献しようとする使命感と専門知識を有する創造性豊かな技術者を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： <a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#engineering">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#engineering</a> )
(概要) 工学部は建学の精神を受けて写真・印刷技術の教育研究から出発し、現在では機械、電気電子、情報、化学・材料、建築の各分野において、さまざまな形でその伝統を受け継ぎ、さらに工学と芸術学を融合した先進的な創造性を特色とする教育を行っています。工学部は、学士力の涵養が学生の力を最大限に引き出す根源と考えており、今後は一定以上の情報処理技術を修得していることがすべての分野の工学教育における重要な基盤となることから、機械、電気電子、情報、化学・材料、建築の各分野で蓄積された知識、技術を教授することを目的に、エンジニアリング・センスのある職業人、学問を深く探求し、専門職を目指す大学院生及び理工系における次世代の人材育成を担う教員、として活躍できる人材を卒業させます。そのため、以下の項目を修得したと認められる者に対し、学士(工学)を授与します。 <ol style="list-style-type: none"><li>1. 機械、電気電子、情報、化学・材料、建築のいずれかの分野について実学に関わる専門分野の知識を有し、その原理や課題についても体系的に理解している。</li><li>2. 機械、電気電子、情報、化学・材料、建築のいずれかの分野について実用的な専門分野の技術を有し、その修得の過程で自己管理能力、チームワーク及びリーダーシップを身に付けている。</li><li>3. 機械、電気電子、情報、化学・材料、建築のいずれかの分野で修めた知識、技術を総合的に活用できる論理的思考力、問題解決能力及び健全な倫理観を備え、明るい未来社会の構築に貢献しようとする意欲と使命感を有している。さらに多くの社会活動が業種、業界をまたがって展開される現代社会の実情に対応し、自身の専門性を継続的に高めるだけでなく、分野を超えて能力を広げていく観点を有している。</li><li>4. 工学分野について基礎的な知識、技術、情報リテラシーに加えて、時代が求める工学と芸術学を融合した先進的な分野創成に必要な創造性と実践力及び意欲を有している。特に情報リテラシーは、多くの産業界で一般に求められる ICT を活用することが可能な一定の能力を確実に身に付けている。</li><li>5. 専門分野、工学分野の知識、技術、先進的な創造性を活かすための後ろ盾となる基礎教養として、人と自然環境との調和を科学する心、人間社会、多様な文化及び芸術表現に関する幅広い視野と教養、豊かな感性並びに健全な倫理観を備え、汎用的な数量的スキル、コミュニケーション・スキルを有している。</li><li>6. 教職課程を選択した学生は、上記の 1～5 に加え、教育の意義、基礎理論、実践に必要な理論と方法についての知識、技術を有している。</li></ol>

## 教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#engineering>)

工学部は建学の精神を受けて写真・印刷技術の教育研究から出発し、現在では機械、電気電子、情報、化学・材料、建築の各分野において、さまざまな形でその伝統を受け継ぎ、さらに工学と芸術学を融合した先進的な創造性を特色とする教育を行っています。工学部は、学士力の涵養が学生の力を最大限に引き出す根源と考えており、今後は一定以上の情報処理技術を修得していることがすべての分野の工学教育における重要な基盤になることから、機械、電気電子、情報、化学・材料、建築の各分野で蓄積された知識、技術を教授することを目的に、エンジニアリング・センスのある職業人、学問を深く探求し、専門職を目指す大学院生及び理工系における次世代の人材育成を担う教員、として活躍できる人材を卒業させるために、以下の方針でカリキュラムを編成、実施します。

1. 機械、電気電子、情報、化学・材料、建築のいずれかの分野について実学にかかわる専門分野の知識を修得させ、それらに関わる原理や課題についても体系的な理解が得られるように、初年次では専門分野の学修の動機付けや展望を持つための講義科目を設置します。2年次以降は学年進行とともに徐々に専門性を高めるために、分野に関する一般的な専門知識を教授する講義科目及び演習科目を配置し、さらに選択した卒業研究の内容を中核にしてより高度な学修ができるよう卒業研究、総合演習科目を設置します。
2. 機械、電気電子、情報、化学・材料、建築のいずれかの分野について実用的な専門分野の技術を修得するために、技能や実践力を重視して育成する実験実習科目及び演習科目を設置します。これらの科目では修得の過程で自己管理能力、チームワーク、リーダーシップが身に付くよう運営します。
3. 機械、電気電子、情報、化学・材料、建築のいずれかの分野で修めた知識、技術を総合的に活用できる論理的思考力、問題解決能力及び健全な倫理観を備え、明るい未来社会の構築に貢献しようとする意欲と使命感を涵養するために、前項1、2に加えて最終学年に卒業研究、総合演習科目を設置します。さらに多くの社会活動が業種、業界をまたがって展開される現代社会の実情に対応し、自身の専門性を継続的に高め、分野を超えて能力を広げていく観点を持つための学修として、初年次よりキャリア科目を設置します。
4. 工学分野について基礎的な知識、技術、情報リテラシーを備えるために、入学者個々の学習歴を考慮した導入教育を初年次教育科目として実施し、工学部の学生共通の素養として設置した専門基礎科目の学修機会を提供します。時代が求める工学と芸術学を融合した先進的な分野創成に必要な創造性と実践力及び意欲を涵養するために、自校教育科目を設置します。特に情報リテラシーは、多くの産業界で一般に求められるICTを活用することが可能な一定の能力を確実に身につけられるよう、必修科目として設定します。
5. 専門分野、工学分野の知識、技術を活かすための後ろ盾となる基礎教養として、人と自然環境との調和を科学する心、人間社会、多様な文化、芸術表現に関する幅広い視野と教養、豊かな感性、健全な倫理観、汎用的な数量的スキル、コミュニケーション・スキルを備えるために、コミュニケーション・スキル、社会の仕組み、心と身体の3つの分野から成る基礎・教養科目及び副専攻を設置します。
6. 上記の1～5の学修においては、教職課程を選択した学生が教科に関わる科目を履修できるよう配慮しています。また、教育の意義、基礎理論、実践に必要な理論と方法についての知識、技術の学修のために教職課程科目を設置します。
7. カリキュラムは学内の教務関連の委員会等により、PDCAサイクルの手法に則って継続的に改善を図ります。

<p>入学者の受入れに関する方針  (公表方法：<a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#engineering">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#engineering</a>)</p>
<p>(概要)  工学部では、入学後に求められる様々な知識・技能や能力を円滑に学修できるよう、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いずれかのコースにおける専門分野の知識や技術を学ぶために必要な基礎的・基本的な知識・技能、</li> <li>2. 工学と感性を融合した新しい分野創成に必要な創造性と実践力を身に付けるために必要な思考力・判断力・表現力、</li> <li>3. 専門分野・工学分野の知識・技術を活かすための健全な倫理観や意欲・使命感を身に付けるために必要な主体性及び多様な人々と協働できる力、</li> </ol> <p>といった3つの特性を身に付けている人を受け入れます。この3つの特性を入学時に全員がバランス良く備えている必要はありませんが、各種入試では、出願資格・要件を満たした志願者のこれら3つの特性が一定の水準にあるかどうかを、選抜方法に応じて確認します。高等学校では、数学(数学Ⅰ、「数学A・数学Ⅱ・数学B」のうち1科目以上)、理科(物理基礎、化学基礎、「物理・化学」のうち1科目以上)、外国語(「英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ」のうち2科目以上)、国語(「国語総合・国語表現」から1科目以上、ただし古文及び漢文を除く)の教科・科目の学習歴があることが望ましいですが、上記の科目以外の学習や不足していると思われる点については、入学前教育や入学後の習熟度別履修により習得し3つの特性をより伸ばすよう努める意欲が求められます。</p>

<p>学部等名 芸術学部</p>
<p>教育研究上の目的  (公表方法：<a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#arts">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#arts</a>)</p>
<p>(概要)  現代社会における芸術の役割を認識し、広範な活動領域で持続的な創作活動及び研究を行うことのできる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針  (公表方法：<a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#arts">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#arts</a>)</p>
<p>(概要)  本学芸術学部はメディアと芸術分野における創造的教育・研究・制作の拠点であり、メディア芸術を基盤とした芸術全般についての学理の下、深く専門的スキル、思考力、実践力を修得した学生に学士(芸術学)を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 写真、映像、デザイン、インタラクティブメディア、アニメーション、ゲーム、マンガの各分野についての専門的知識と実践的なスキルを有している。(知識・スキル)</li> <li>2. メディア芸術文化推進並びに創造的発展に率先的に貢献する使命感を持っている。(関心・意欲・態度)</li> <li>3. 人間として調和のとれた豊かな感性と幅広い教養とを身につけている。(感性・教養)</li> </ol>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針  (公表方法：<a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#arts">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#arts</a>)</p>
<p>(概要)  メディアと芸術に関する人間と文化について、基礎的教養を持ち、豊かな感性と自由な創造精神に貫かれた芸術的個性を有し、メディアに載せて発信できる創造的・実践的人材の育成を目標としています。このため、①実技系教育の重視と積み上げ型の編成、②学科コア・カリキュラムの明確化、③卒業研究活動の充実ということを大きな方向性としています。このような教育を行うために、本学部の教育課程は、メディア芸術の基礎並びに幅広い教養を教授する基礎教育課程と深く専門の学芸を教授研究するための専門教育課程とに区分して、高度に専門的知識と技術ともに総合的な判断力をもつ人材を育成します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針  (公表方法：<a href="https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#arts">https://www.t-kougei.ac.jp/guide/policy/#arts</a>)</p>

(概要)

写真の技術及び表現の研究教育から出発した芸術学部では、発展し続けるテクノロジーを基盤にしながら、新しい芸術分野（映像、デザイン、インタラクティブメディア、アニメーション、ゲーム、マンガ）を開拓し、深化させ、創造的で豊かな社会の形成に寄与するために、基本的なコミュニケーション能力を有し、自分の生きている世界に対して高い関心を抱き、専門分野に関する知識と技能の習得について強い意欲を持った人を求めています。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
工学部	—	34人	18人	4人	6人	2人	64人
芸術学部	—	39人	30人	0人	10人	5人	84人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		335人					335人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： <a href="https://portal.kougei.net/kg/japanese/index.html">https://portal.kougei.net/kg/japanese/index.html</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
① 実施体制							
a 委員会の設置状況							
<p>本学規程に基づき、教員の教育研究活動の向上及び能力開発に関する事項を審議するため、FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会（以下「委員会」という。）を設けている。</p>							
b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）							
<p>委員会は、①委員長（学長が指名）、②教務部長（工学部及び芸術学部）、③各学部から選出された教員各2名、④各研究科から選出された教員各2名、⑤教務課長（厚木キャンパス及び中野キャンパス）、⑥その他委員長が必要と認めた者から構成されている。現在は、計17名（教員13名、職員4名）の教職員が委員となっている。委員会は年10回開催している。</p>							
c 委員会の審議事項等							
<p>委員会は、次の事項に関して審議している。</p> <p>(1)教育研究活動の改善の方策に関する事項</p> <p>(2)教育研究活動改善のための研修計画の立案・実施に関する事項</p> <p>(3)学生による授業評価の実施及び結果分析に関する事項</p> <p>(4)教員のFD活動の指針及びFD活動の報告書の刊行に関する事項</p> <p>(5)その他FDに関する事項</p>							
② 実施状況							
a 実施内容							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピア・レビュー</li> <li>・新任教育職員FD研修会</li> <li>・FDニューズレター作成</li> <li>・ベストティーチング賞</li> <li>・FD研修会</li> <li>・授業評価アンケート</li> <li>・インターンシップ成果報告会</li> <li>・シラバス作成についてのFD</li> <li>・FD支援対象事業審査</li> </ul>							
b 実施方法							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピア・レビュー</li> </ul> <p>双方向のレビューが授業改善に役立てるよう、授業公開を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教育職員FD研修会</li> </ul> <p>「実践的な授業の進め方」というテーマの基、約1時間講義を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FDニューズレター作成</li> </ul> <p>①授業方法や教育方法の改善例、②学習効果を上げるために授業で取り組んでいること、③学生の理解度を把握するために取り組んでいること、④各教員の取り組みを共有するために行っていること、を中心にFD活動の報告をまとめ発行している。</p>							

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベストティーチング賞 卒業生を対象として、卒業式の日「ベストティーチング賞選定のためのアンケート」を実施している。学生に教え方の上手さという観点から順位を記入してもらい、合計点数の最も高い教員を原則としてベストティーチング賞に選定している。</li> <li>・FD研修会 外部から講師を招き、各学部、全専任教員を対象に約1時間の講演会を実施している。</li> <li>・授業評価アンケート 本学ポータルサイトを利用し、学生にアンケート(選択15問、自由回答2問)を実施している。また、アンケート集計結果は各学部、教員にフィードバックしている。集計結果とそれに対する担当教員のコメントは本学ポータルサイトを通して、全学生・全教員に公開している。なお、アンケート結果によっては、FD委員長が指導することもある。</li> <li>・インターンシップ成果報告会 学生が取り組んだインターンシップの成果報告会に参加する。</li> <li>・シラバス作成についてのFD 教科概要(シラバス)作成マニュアルを調製し、全教員を対象にシラバスの作成方法を周知する。</li> <li>・FD支援対象事業審査 ①公開のFD関連研修会・セミナー参加、②学科FD研修での外部講師招聘、③教育改善のための組織的な研修プログラム、④教材開発・カリキュラム開発を対象事業とし、全専任教員からの申請を委員会で審議する。</li> </ul> <p style="margin-left: 2em;">c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピア・レビュー 各学部、全専任教員が2年間でレビューまたはレビューアのいずれかを担当する。</li> <li>・新任教育職員FD研修会 各学部、全新任教員を対象に実施している。</li> <li>・FDニューズレター作成 FD委員長、各学科主任、両研究科長、両教務部長が執筆し、年1回発行している。</li> <li>・ベストティーチング賞 全専任教員を対象に、年1回学位授与式の際に実施している。</li> <li>・FD研修会 全専任教員を対象に年1回開催している。出席できなかった教員については、動画撮影した研修会の様子を視聴し、報告書の提出を義務付けている。</li> <li>・授業評価アンケート 年4回(前期中、前期末、後期中、後期末)全教員を対象に実施する。</li> <li>・インターンシップ成果報告会 全専任教員から希望者を対象に各学部年1回開催している。</li> <li>・シラバス作成についてのFD 年1回全教員を対象に実施している。</li> <li>・FD支援対象事業審査 全専任教員から希望者を対象に申請の都度実施している。</li> </ul> <p style="margin-left: 2em;">d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピア・レビュー 教員同士が互いに授業公開を行い、気づいた点を指摘し議論し合い、授業改善に役立っている。</li> <li>・新任教育職員FD研修会 当該研修に基づき、授業の進め方、説明方法の改善等に取り組んでいる。</li> <li>・FDニューズレター作成 ①授業方法や教育方法の改善例、②学習効果を上げるために授業で取り組んでいること、③学生の理解度を把握するために取り組んでいること、④各教員の取り組みを共有するために行っていること、を中心にFD活動の報告をまとめ発行し、全専任教員で情報を共有し、授業改善に役立っている。</li> <li>・ベストティーチング賞 合計点数が最も高い教員を原則としてベストティーチング賞に選定し、教育活動を奨励・支援し、授業改善に役立っている。</li> <li>・FD研修会 当該研修を基に、授業改善に役立っている。</li> </ul>
---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケート アンケート集計結果を各学部、教員にフィードバックし、授業改善に役立てている。</li> <li>・インターンシップ成果報告会 インターンシップ成果報告会に参加することで、学生に対して企業が現在何を求めているかを把握し、授業に反映させられるよう改善している。</li> <li>・シラバス作成についてのFD 全授業科目のシラバスに記載する項目や表現内容に統一した基準を設け、学生が履修しやすいように改善を継続して行っている。</li> <li>・FD支援対象事業審査 外部機関が開催するFD関連研修会等に積極的に参加し、授業の進め方の改善を実施している。</li> </ul>
<p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 工学部：年4回（前期中、前期末、後期中、後期末）全教員を対象に実施する。 芸術学部：年2回（前期末、後期末）全教員を対象に実施する。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 本学ポータルサイトを利用し、学生にアンケート（選択15問、自由回答2問）を実施している。また、アンケート集計結果は各学部、教員にフィードバックしている。集計結果（両学部）とそれに対する担当教員のコメント（工学部）は本学ポータルサイトを通して、全学生・全教員に公開している。なお、アンケート結果によっては、FD委員長が指導することもある。</p>

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	400人	472人	118%	1,600人	1,722人	107%	-人	-人
芸術学部	585人	699人	119%	2,340人	2,739人	117%	-人	-人
合計	985人	1,171人	%	3,940人	4,461人	113%	-人	-人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	358人 (100%)	35人 ( 9.8%)	317人 ( 88.5%)	6人 ( 1.7%)
芸術学部	537人 (100%)	11人 ( 2.0%)	360人 ( 67.0%)	166人 ( 30.9%)
合計	895人 (100%)	46人 ( 5.1%)	677人 ( 75.6%)	172人 ( 19.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

### ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスの以下の項目等について、シラバス作成マニュアルを作成し、例年12月下旬から1月上旬にシラバス作成依頼をする際に、各科目の担当教員に配付している。</p> <p>「授業概要」（工学部）、「科目概要」「授業内容」（芸術学部）  「学習成果との関連」（工学部）  「到達目標」（両学部）  「授業計画」（両学部）  「履修上の注意」（両学部）  「準備学習（予習・復習）の内容・時間」（両学部）  「成績評価方法・基準」（工学部）、「成績評価方法」（芸術学部）  「試験方法」（芸術学部）「課題（試験やレポート等）に対するフィードバック」（工学部）  「教科書等」（両学部）  「科目と関連する実務経験」「実務経験の科目への活用」（工学部）  「担当教員の実務経験と科目の関連性」（芸術学部）</p> <p>また、各科目の担当教員により作成されたシラバスを、2月から3月にかけて教務委員がすべて確認し、必要に応じて修正のうえ、4月の授業開始前までにポータルサイトで学生に公表している。大学のホームページにシラバス検索機能を設けて、外部に対しても公表している。さらに、シラバス作成依頼前の12月頃、シラバス作成に関するFD研修会を開催し、適切にシラバスが作成されるよう教員の能力向上を図っている。</p>
---

### ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>学則では「学生の学修の成果に係る評価及び卒業の認定については、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。」としている。</p> <p>また、「工学部履修及び修得に関する規程」、「工学部試験規程」及び「芸術学部学修に関する規程」を設け、「試験の区分・方法」「試験の受験資格」等を明記している。</p> <p>これらの学則及び規程に基づき、シラバスに「成績評価方法・基準」（工学部）「成績評価方法」（芸術学部）「試験方法」（芸術学部）欄を設け、公表している。なお、シラバス作成に関するFD研修会を開催し、「成績評価方法・基準」（工学部）「成績評価方法」（芸術学部）「試験方法」（芸術学部）が適切に設定されるよう教員の能力向上を図っている。</p> <p>さらに、成績照会制度を設け、成績評価について疑義がある場合には、学生が教員に成績評価の根拠を照会することができるようになっており、成績評価の客観性及び厳格性を担保している。</p>
---

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	メディア画像学科	124 単位	有	49 単位
	生命環境化学科	124 単位	有	49 単位
	建築学科	124 単位	有	49 単位
	コンピュータ応用 学科	124 単位	有	49 単位
	電子機械学科	124 単位	有	49 単位
	工学科	124 単位	有	建築コース以外 40 単位 建築コース 44 単位
芸術学部	写真学科	124 単位	有	49 単位
	映像学科	124 単位	有	49 単位
	デザイン学科	124 単位	有	49 単位
	インタラクティブ メディア学科	124 単位	有	49 単位
	アニメーション学 科	124 単位	有	49 単位
	マンガ学科	124 単位	有	49 単位
	ゲーム学科	124 単位	有	49 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : : <https://www.t-kougei.ac.jp/guide/basic-info/campus/>  
[https://www.t-kougei.ac.jp/static/file/campusguide2019\\_05.pdf](https://www.t-kougei.ac.jp/static/file/campusguide2019_05.pdf)

⑧授業料、入学料その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
工学部	工学科	1,060,000 円	200,000 円	290,000 円	
芸術学部	全学科	1,060,000 円	250,000 円	550,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●奨学金・特待生 本学では人物・学業共に優れ、かつ健康であって、経済的理由により修学に困難があると認められる学部生、大学院生を対象に、学習の奨励と学業継続の支援を2つの柱とした学内奨学金制度を設けている。 また、成績が著しく優秀な学生に対して、授業料の半額を免除する特待生制度を設けている。</li> <li>●学生指定寮 キャンパス近隣に指定学生寮を設置し、遠方からの入学生を支援している。</li> <li>●障害者支援 「東京工芸大学における障害のある学生の支援に関するガイドライン」を定めて、相談や支援を行っている。</li> <li>●学修支援センター (厚木キャンパス) 基礎学力の習得について、学生ひとり一人の個別学習をサポートしている。</li> <li>●留学生支援 入学時に留学生に向けたガイダンスを実施し、「留学生ハンドブック」を配付している。また、特に多数在籍者がいる中国人留学生に対応するため、中国語に対応できる職員を配置している。また、留学生同士に限らず日本人学生との交流の場として、留学生交流会を開催している。</li> </ul>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学の就職・キャリア支援の根幹として、4年間の「キャリア教育」を実施している。各学年に「キャリア教育科目」を設け、社会に出て活躍する上で必要な基礎力、汎用力、コミュニケーションスキルなど社会人のベースとなる教育を4年間かけて行っている。</p> <p>1年次からのキャリア教育を受けて、就職活動支援は、3年次から行っており、就職支援課では、企業や就職に関する情報提供、各種ガイダンスや講座を実施している。また個別指導にも力を入れており、社会経験豊富なスタッフが、エントリーシートや履歴書、論作文の添削、模擬面接など、学生の資質、能力を高め、それぞれの適性や希望、専門性を活かして、満足のいく就職が実現できるよう、丁寧かつ、親身なサポートを行なっている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●厚木キャンパス健康管理センター・中野キャンパス保健センター 心身の健康管理について相談を受けており、日常生活についてのアドバイス・応急処置や医療機関の紹介等も行っている。さらに、週1回学校医が健康に関わる全面的な相談を受けている。</li> <li>●学生支援センター&lt;HOME&gt; (厚木キャンパス) 専門資格を持つカウンセラーがおり、学業意欲や友人関係、自分の性格や悩み、将来のこと等を何でも気軽に相談できる体制を整えている。</li> <li>●中野キャンパス学生なんでも相談室 (お話ルーム) 中野キャンパスで校医や専門資格を持つカウンセラー、職員を相談員とし、月に6~7日</li> </ul>

程度開室しており、授業や制作・人間関係・進路についてなど、あらゆる相談を受け付けている。

#### ⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

<https://www.t-kougei.ac.jp/campuslife/support/disability/>

<https://www.t-kougei.ac.jp/students/inquiry/foreign/>

<https://www.t-kougei.ac.jp/gakubu/engineering/lr/>

<https://www.t-kougei.ac.jp/career/>

[https://www.t-kougei.ac.jp/static/file/campusguide2019\\_07.pdf](https://www.t-kougei.ac.jp/static/file/campusguide2019_07.pdf)

<https://www.t-kougei.ac.jp/campuslife/ssc/>

[https://www.t-kougei.ac.jp/static/file/campusguide2019\\_03\\_01.pdf](https://www.t-kougei.ac.jp/static/file/campusguide2019_03_01.pdf)